

第6回日本認知症予防学会学術集会 発表

題名；中鎖脂肪酸油による在宅高齢者への認知障害・認知症に対するアプローチ
～調剤薬局来局者への対応を通じての改善症例（第2報）～

氏名；鈴木正和¹⁾、佐野淳也²⁾、野坂直久²⁾、渡邊慎二²⁾、阿部真也¹⁾、野村和彦¹⁾、吉町昌子¹⁾、
後藤輝明¹⁾

所属；¹⁾株式会社ツルハ、²⁾日清オイリオグループ株式会社

【目的】

調剤薬局来局顧客には、「物忘れが激しい」、「認知症薬の服薬でも、症状悪化する」と相談がある。中鎖脂肪酸油（MCT）には、軽度認知障害やアルツハイマー型認知症(AD)症状の改善報告がある。一方、MCTは古くから未熟児や術後の栄養補給に使用されている。そこで、MCT摂取を推奨し症状の改善作用を検証した。昨年度に引き続き、新規来局者も含めて、ヒアリングによる経過観察を行った。

【方法】

無償試供のMCTを本人、或いは家族に渡し、摂取は20g/日までとし、炊飯時に混合、或いは料理に混ぜて食べるよう奨めた。再来局時に聞き取りを行った。摂取中の薬の服薬は自由とした。

【結果】

ADでの認知症症状、脳梗塞既往者等でのもの忘れ、等の改善傾向が見られ、11名中5名において何らかの症状の改善傾向が観察された。残り6名は未摂取、経過観察中、或いは、状況不明。症例1.AD罹患にて、MCT摂取により家族がその変化に驚く程の改善を認めた。摂取を中断し認知症状の悪化が認められたが再摂取による改善が現れた。1年以上摂取しているが認知症状は安定している。症例2.脳梗塞既往歴者へのMCT摂取により記憶力向上が認められる。約1年摂取しているが認知機能は改善し、安定している。症例3.自覚的認知障害を訴える健常者へのMCT摂取推奨し、ご本人が自覚的改善を認めた。一部の人に、摂取中断による症状の逆戻りが観察され、継続的摂取の必要性が認められた。

【考察】

MCT摂取は物忘れや認知症状の改善、安定化の可能性があり、薬物とMCTの併用に影響もなく、MCT摂取推奨の継続意義があると考えられた。

【倫理的配慮】

摂取・観察に関連した注意事項、自由意志により実施されることを、本人、家族へ事前説明した。また、個人・秘密情報保護、人権に配慮し、発表承諾を得た。本演題に関連して開示すべき利益相反はない。